

特集

遺伝カウンセラーとは異なる 出生前検査における 助産師の役割

日本では 2012 年にいわゆる新型出生前診断 (NIPT) の開始について報道され、社会が、そして医療現場も混乱をきたしました。その背景には、妊婦や家族に正しい情報が伝わっていないことや、カウンセリング体制が整備されていないことがあるようです。

そのような状況下において、外来で妊婦の第一の窓口となり、妊娠初期から分娩、産後に至るまで母子に寄り添うことができる助産師には、身近な相談者としてのかわりが求められます。遺伝カウンセラーの役割は非常に重要ですが、助産師にはまた違う側面から、妊婦と家族の声を聴き、お腹の赤ちゃんのことを一緒に考えられるという、とても大切な役割があるのです。

